

## 大学

健康医療科学部 医療貢献学科 言語聴覚学専攻

### 聴覚学特論

井脇 貴子 教授、鶴岡 弘美 外部講師

「聴覚学の学びを「体験」を通して深め、  
「違いを共に生きる」心を磨く。」

言語聴覚士の幅広い対象分野のうち、聴覚障がいについて専門的に学ぶ「聴覚学特論」。体験を重視しながら、めまいの検査、幼児の聴力検査、補聴器や人工内耳などへの理解を深めます。視覚聴覚二重障がいに関する授業ではペアワークを実施。患者役がアイマスクと防音ヘッドホンをつけ、白杖を手にし、介助者役のサポートのもとで教室移動、食堂でのランチ、多目的トイレの利用などを体験しました。障がいのある人に寄り添ったコミュニケーションや援助を学ぶと共に、点字ブロックなど身近なユニバーサルデザインの重要性を再認識した学生たち。「その人の生活や人生をどう支えるか」を広い視野で考えられるよう、体験を通して学びを深めてほしい」と語る井脇先生。本学の理念「違いを共に生きる」を医療や福祉などの現場で実践し、人々の笑顔に貢献できる言語聴覚士を育てています。



# 愛知淑徳の授業

生徒・学生の意欲に応え、一人ひとりの可能性を広げる愛知淑徳学園のさまざまな授業を紹介いたします。

## 中学校

愛知淑徳中学校

### 社会

坪井 大輔 教諭

「地理・歴史の基礎を学んだ上で、  
視野を広げて現代社会や未来と向き合おう。」

日本と世界の地理・歴史の基礎知識を身につけて、現代社会と向き合う力を養う社会科。坪井先生が担当する中学3年生の授業では、この日、日本の戦後を学びました。取り上げられたのは、経済成長、国民生活の変化、公害など。現代の時事問題や生徒の身近な話題と関連づけながら、生徒自身が考え、互いの意見を交わす時間が設けられ、教室は活気にあふれていました。「社会は暗記科目ではなく、基礎知識を積み重ねた上で、多様な側面から考察を深めるところにもしるさがあります。例えば、歴史の出来事や先人の取り組みについて、今の自分に置き換えて考えることで、その時代の人々の思いや生活がよみがえってきます。そうした思考力、想像力を磨き、興味を広げてほしい」と語る坪井先生。生徒が視野を広く持ち、社会や世界、自分の進路や未来と向き合える心も育んでいます。

